

懇談会概要

■開催日時：令和8年1月6日（火）10：00～12：00

■開催場所：九段第3合同庁舎 15階会議室

■出席者

[委員長] 屋井 鉄雄 (東京科学大学特任教授・名誉教授)
[委員] 池邊 このみ (千葉大学グランドフェロー) (WEB)
小幡 純子 (日本大学大学院法務研究科教授) (WEB)
佐々木 淳 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授) (WEB)
白石 和泰 (TMI 総合法律事務所パートナー弁護士
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授)
寺部 慎太郎 (東京理科大学創域理工学部社会基盤工学科教授)
二村 真理子 (東京女子大学現代教養学部経済経営学科教授)
[事務局] 関東地方整備局千葉国道事務所長 堤 啓
千葉県県土整備部道路計画課長 近藤 亮
千葉市建設局道路部長 日暮 秀訓
市川市道路交通部長 米崎 勝則
船橋市建設局都市計画部長 杉原 弘一
習志野市都市環境部長 (代理)都市環境部副技監 斎藤 義之
市原市土木部長 (代理)土木部次長 北森 努
浦安市都市政策部都市政策部長 須賀 真 (WEB)

■次第

- (1) 頂いたご意見の把握
- (2) 今後の進め方

■主な意見

- 第2回コミュニケーション活動では、年齢や職業等の多様な属性の方々から前回は上回る具体的な意見をいただいております、当該道路計画に対する地域の関心の高さを感じた。
- 年齢や職業、様々な属性から回答があつて良かった。利用頻度を見ると、普段は鉄道で通勤していて買物で道路を利用する方などが多い印象であるが、業務系の方はどうか。利用頻度の高い方の声が薄まっていないか心配である。
- 道路の必要性に関する意見が多く寄せられた印象であり、属性を踏まえた意見の傾向分析を行う必要がある。また、懸念事項に関する意見も多いため、丁寧なコミュニケーション活動が必要である。
- 前提条件が十分に共有されていない印象である。道路ができるのは20～30年後ということを確認の上、アンケートに回答いただいているのか疑問。

- 現状は流山市や印西市に人口が増加しているが、将来的に高齢化したとき、20年後も同様の渋滞状況なのか見えていない。現状の問題課題は把握できたところであるが、道路が整備されるまでには時間がかかる。これらについて共通認識を持ってないと、自然環境や景観を阻害してまで進める必要があるのかという疑問を抱く。また、人口動向や物流の様態の変化を分析し、房総半島の人口が減るのであれば、現状の課題箇所のみでの局所的な対策を行えばよいのではないかという意見が出てくることも想定される。
- 道路が整備されることで人口が増える、人口減少が食い止められる、通勤流動が増える効果もあると思う。両方の側面から検討する必要があると思う。
- 人口動態や物流需要等、社会情勢の変化を踏まえた将来イメージができるような判断材料として、道路需要等に関してできるだけ定量的に示す必要がある。
- 意見を聞かれると反対の声を上げたくなる方が多いため、新しい道路、というコンセプトを示していくことが必要と思う。
- 地元の方だけに寄与するものでなく、広域のネットワークを考慮している道路である。一方で地元の方への景観等への負担が大きいことも提示する必要があるのではないか。
- そもそも、現状の環境の中には人工物もあることも提示する必要があるのではないか。
- 必要性の確認を先送りにしているため、必要性に関する疑問が多く寄せられるのは仕方がないことでもある。可能な限り判断材料を提示することが重要で、どのような効果があるか、現状の交通量に対して提示するのも意味はあるし、将来のシナリオを仮定して試算することでもよい。
- 現時点では判断できない、迷っている趣旨の意見はなかったか。
- ルート・構造に関する意見要旨は、それぞれが同時に実現できない意見が多い。真意を見極めて検討を進める必要がある。